

# 安全・安心

## 緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)

＜主な派遣実績＞		隊員数 (人)	のべ人数 (人・日)
R2年	7月豪雨	127	909
R2年	台風第10号	9	42
R2年	鳥インフルエンザ	3	4
R3年	1月7日大雪	45	79
R3年	台風第10号	9	42
R3年	CFS(豚熱)	1	1
R3年	福井県記録的短時間大雨	9	42
R3年	12月25日からの大雪	26	54

令和3年度におけるTEC-FORCE以外の自治体等への支援例  
 (1)和歌山市六十谷水管橋落橋に対する支援  
 (2)新型コロナウイルスの水際対策として開設された  
 宿泊待機施設への応援派遣



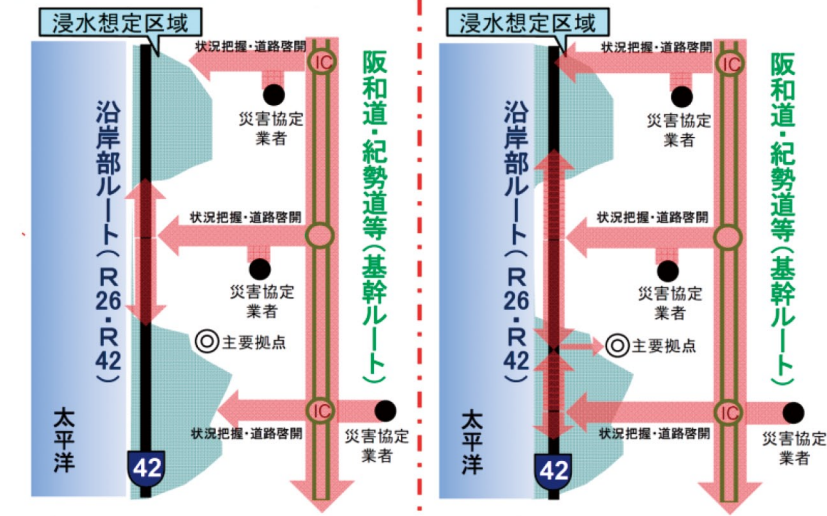
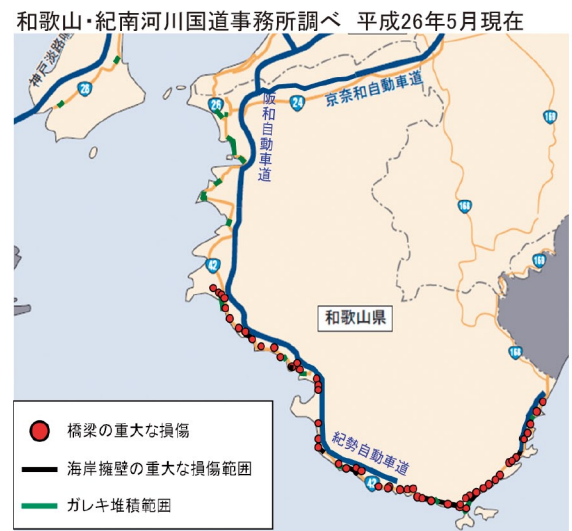
## 南海トラフの巨大地震・津波等に対する取り組み

【直轄国道の被害想定】	浸水延長	橋梁の 重大な損傷	海岸擁壁の 重大な損傷	ガレキの 堆積
和歌山県	約100km	53橋	約20km	約30km

【道路啓開計画】  
 ■「和歌山県道路啓開計画」では、津波被害想定をもとに、緊急輸送道路ネットワーク等を考慮し、優先的に啓開すべき道路を『啓開ルート』として選定  
 ■人命救助を目指した救助・救援ルートを確保するため『道路啓開』の段階目標を設定

【STEP1⇒発災後、24時間以内完了目標】  
 基幹ルート、及び沿岸部への進出ルート等(浸水想定区域外)を確保

【STEP2⇒発災後、48時間以内完了目標】  
 津波警報解除後、主要拠点(市役所等)への進出ルートを確保



【地域対策計画】  
 ■南海トラフ地震発生後、沿岸部では、津波による二次災害に留意しつつ、TEC-FORCE隊員による津波浸水地域の排水活動を関係機関と連携して実施。



【堺泉北港堺2区基幹的広域防災拠点】  
 ■発生が危惧される大規模災害の際に、「救援物資の中継基地・被災地支援隊のベースキャンプ・ヘリコプターによる災害医療支援」などを行う重要な機能を担うとともに、平常時は市民の憩いの広場として利用。



# インフラDX

## 【インフラ分野のDX～これまで働き方を一変させる変革～】

様々なインフラデータをデジタル化し、自由に活用できる環境が整うことにより、国民への様々なサービスの提供が可能となり、設計から維持管理が高度化するほか、業界、職員の働き方改革が進み、生産性向上につながります。  
 近畿地方整備局では、これまで生産性向上として取り組んできたi-Constructionをより深化させるため、インフラDXを推進していきます。

### DXの概念

進化したデジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。

### 「行動」のDX

どこでも可能な現場確認



### 「知識・経験」のDX

誰でもすぐに現場で活躍



### 「モノ」のDX

誰もが簡単に図面を理解

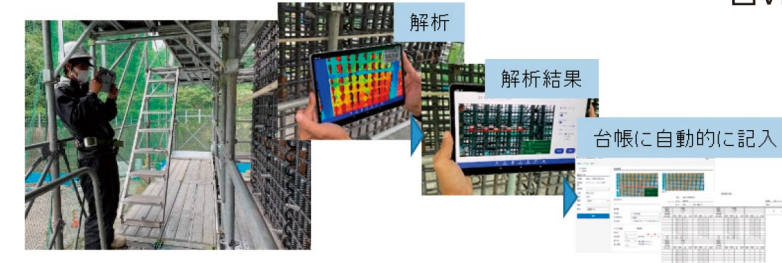


## 行動のDX～ICTを活用した監督・検査体制～

□建設現場における遠隔臨場

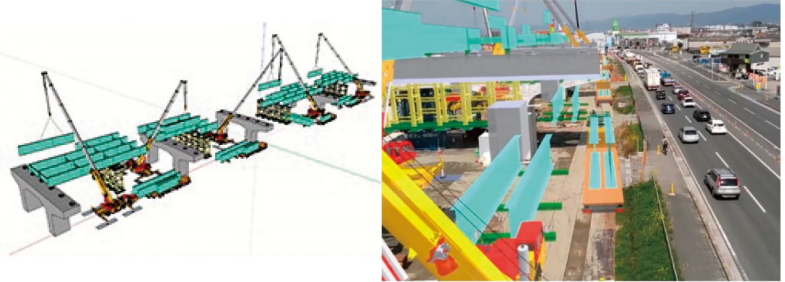


□鉄筋出来形自動計測の試験導入



## モノのDX～3次元データ活用による生産性向上～

□MRを用いた現地投影による架設計画



□VRによる安全教育等への活用



## 知識・経験のDX～ICT活用の加速による生産性向上～

□自動化施工

・事前にプログラムされた手順に従い、建設機械が自動で作業を実施。  
 ・災害復旧現場など、危険で迅速な復旧が求められる現場において、安全確保に加えて、省人化等のさらなる生産性の向上を目指す。



□ICT土工(小規模土工)

・比較的小規模な現場へのICT施工を導入  
 ・出来形管理は、衛星測位(RTKGNSS)やトータルステーション(TS)等による断面管理を標準とし、モバイル端末等を活用した面管理も可能。

